

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年6月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600778		
法人名	有限会社 ユニバーサルライフ		
事業所名	グループホーム「紅葉（もみじ）」		
所在地	(〒 653-0882) 兵庫県神戸市長田区長田天神町2丁目13-15		
	電話	078-641-4838	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年4月24日	評価確定日	平成21年6月28日

【情報提供票より】 [平成21年4月4日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月15日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計8人)		
職員数	11人	(常勤2人) (非常勤9人)	/ 常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造コロニアル葺造り		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000～65,000円	その他の経費(月額)	25,000円	
敷金の有・無	有り (円) ・ (無)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	(有り) (300,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	(有り) ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または、1日あたり		1,500円	

(4) 利用者の概要 (平成21年4月4日 現在)

利用者人数	計6名	… (男性0名) (女性6名)	
要介護1	0名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均84.5歳 … (最低78歳) (最高89歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸朝日病院 関医院 中村歯科 甲南デンタルクリニック
---------	-----------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は私生活において認知症介護を経験しており、その思いも生かし、「誰もが、こうありたい」と考えるホームづくりに職員皆で尽力している。個別記録の記載のされ方からも、利用者一人ひとりへの細かな気遣いが感じられた。場所は、神戸電鉄「長田駅」より徒歩3分の便利なところ。建物は一戸建住宅を改築・模様替えしたものであることから、外観は周囲の街並みに馴染み、また、内装についても“家”を感じやすい造りである。訪問当日も、利用者と職員が台所やリビングに集い、テレビを観たり談笑するなど、穏やかに過ごされていた。地域との関わりも進んでおり、ホーム行事への招待のほか、運営推進会議を通じた交流(ふれあい喫茶への参加・ごみ出しのお手伝いなど)が広がっている。◎参考までに、前回・前々回の評価時の資料写真を添付

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①「もみじ祭り」(ホーム主催)において、屋台(機材を地域福祉センターからレンタル)を出し、地域の方と交流を深めることができた。これらのことは運営推進会議の場で相談し、実現に至った。②家族への報告は、利用者個々へ手紙で(写真も添え)行なっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員全員で取り組み、管理者がこれをまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催され、利用者、家族、管理者、計画作成担当者のほか、民生委員、地域代表、あんしんすこやかセンター職員、他ホームの管理者が参加している。会議での意見交換も活発で、地域の方からの提案により、ボランティア活動(利用者の散歩の付き添い)にも繋がった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月、「紅葉通信」を発行し、行事案内やお知らせの案内をしている。利用者の日々の暮らしぶりは、それぞれのご家族に写真を添え手紙で伝えている。家族の来訪時には気軽に要望や意見を言ってもらえるよう、その雰囲気づくりを心掛けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 地域福祉センターふれあい喫茶では、ホーム利用者の指定席を設けており、月1回モーニングサービスを利用している。ふれあい喫茶では100歳の誕生日を迎えた利用者がプレゼント(ストール)を頂くなど温かな交流がなされている。災害時の避難場所としてホームを利用してもらうなどの地域貢献にも取り組んでおり、ホームの外灯(24時間点灯)も、防犯の面で感謝されている。

◎居心地のよい共用空間づくり
壁に飾られている共同作品



◎居心地よく過ごせる居室の配慮
個々の居室は馴染みの物で…



◎食事を楽しむことのできる支援
今日は、お客様を手作りの料理で迎えて…



◎居心地のよい共用空間づくり
共用スペースにも、ひとりでゆっくりできる場所を…





▲生活空間の配慮
(椅子の脚に、テニスボールを)

▼小学校での「ふれあい喫茶」で交流 (右は案内の掲示)



▲居室は、入居者それぞれの好みで…
住まいとして、使い慣れた家具を持ち込み…



▲お洒落な佇まい (表札も手作り)



▲中庭の「紅葉(もみじ)」

2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「真心・快適・安心」を理念に、(地域と孤立せず)利用者が地域との交流の中で、その人らしい生活を送れるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関ホールに掲示しており、職員が常に意識して取り組めるようにしている。理念を具現化するための指針「もみじのグループケア」を掲げ、利用者が地域の生活者として、尊厳をもった暮らしができるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板の受け渡しはもちろん、地域清掃、小学校横の通期福祉センターの月1回のふれあい喫茶には必ず参加している。地域の方が資源ゴミのゴミ出しを手伝ってくれたり、日課の水天宮への散歩にご一緒してくれたり、日常にお付き合いがある。また、地域の方々に気軽に足を運んでもらえるよう、勝手口は日中開放している。	○	自治会掲示板を利用させていただき、ホームからのお知らせや行事案内を地域の方に発信してみてもどうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については、全員に周知されており、職員会議においても、検討・改善の話し合いがもたれ、その実践に向け取り組んでいる。評価結果は家族に報告している。	○	第三者評価結果を家族に報告し、検討課題への改善についての意見や協力も頂けるよう試してみてもどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの活動報告や現状についてを話し合い、サービスの向上に努めている。会議の開催場所を地域福祉センター(名倉小学校の隣)としたのも、地域の方からの提案による。	○	運営推進会議に出席できなかった家族にも、議事内容を報告する工夫をしてほしい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3カ月に1回、長田区グループホーム連絡会に参加し、区や他のグループホームと情報交換している。小地域ネットワーク会議にも出席し連携をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な報告は勿論のこと、利用者の健康状態や気分にも少なからず変化があった場合は、家族へこまめに報告するようにしている。毎月発行している「紅葉通信」では、ホーム行事や職員異動について報告し、担当職員が利用者ごとに手紙を写真を同封して、個々の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に交わす利用契約書にホーム内と外部の苦情相談の窓口を明示している。家族が来訪時には、ご意見、ご要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。意見等は、職員会議で取り上げ、改善に向けて話し合い、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職を最小限に抑えるため、職員との信頼関係を築く努力をしている。シフトも希望の休日を取り入れるなど働きやすい職場づくりに努めている。やむをえない職員の離職に関しては、入居者に不安感を与えないよう、引継ぎの期間を必ず設けている。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、大学教授(利用者の家族)や歯科衛生士などの専門職に協力いただき、2か月に1回程度、内部研修を実施している。新人研修については、ホーム長が実務研修を行っている。外部研修を受講した職員は、職員会議時を利用し、伝達研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田区グループホーム連絡会に参加し情報交換し、サービスの質の向上に努めている。今後は、兵庫県内の他ホームとの相互見学や研修、交流会も計画している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、利用者がその人らしい暮らしを送れるか、また他の利用者の方との雰囲気馴染んで頂けるか、について、家族、利用者と相談する機会を設けている。入居後1か月は、暫定ケアプランにて様子を見ながら、利用者、家族の要望を取り入れた個別プランの作成を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や物づくりの場面で、利用者の持てる力を引き出す「待つ支援」を行っている。職員は、利用者から、編み物(マフラー・帽子)の編み方を教わり、お正月には、「黒豆の煮方」や「おせち料理の云われ等」を覚えてもらい、支え合う関係を築いている。日々、食卓にあがる漬物は、利用者手作りしてもらったもの。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりと会話する時間を多く持ち、希望や意向を把握できるよう努めている。1日2回の申送りで、利用者の希望を職員が共有できるよう努めている。記録を改善したことにより、本人の言葉を記入し、介護計画に活用している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族に出席してもらい、利用者、家族、職員それぞれの意見を出し合い、利用者の思いを反映させた介護計画を作成している。	○	ホームで行っている日常生活リハビリや、地域の方の支援を介護計画の中に位置付けてもらいたい。介護計画に明記した、ホームで実施している生活機能維持(日常生活リハビリ)について、家族に説明をする機会を設けてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	5段階のモニタリング表を活用し、3カ月に1回、見直しをしている。利用者の状態の変化に応じて、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人(有限会社 ユニバーサルライフ) が運営するデイサービスの行事にも参加し、他の方との交流の機会となっている。訪問歯科を利用し、医療連携体制も確保している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(関医院)が在宅医療支援診療所の資格を得たことにより、24時間対応の医療を受けることができている。月2回の往診のほか、緊急時や急変時は、休日でも往診や応急対応の指示を頂くことができる。かかりつけ医からケアの方法やアドバイスを受けるなど信頼関係ができている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、ホームの方針を利用者や家族、関係者で繰り返し話し合っている。かかりつけ医との連携のもと、ホームが最大限できることに取り組んでいる。重度化した場合、ホームができること、できないことの指針の作成を検討している。	○	利用者の重度化に向けて、ホームとしての看取り介護に関しての指針を文書化し、家族と話し合う機会を是非設けて頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、プライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。採用時に職員と誓約書を交わし、個人情報の取り扱いについては、十分に注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、利用者が「自分の家」で、その人らしい暮らしができるように、「利用者本位」・「持てる力を活かせるように」を心がけ、支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの旬の食材を活かした献立づくりから、買い物、調理、後片付けまで利用者と協働して行っている。コミュニケーションをとりながら、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。日々食卓にあがる漬物は、利用者が手作りしている。月1回は、回転寿司などの外食も楽しんでいる。		
23	57	<input type="checkbox"/> 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には「1日置き」としている。入浴時は、利用者一人ひとりのペースを大切に、ゆったりと入浴できるように支援している。ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<input type="checkbox"/> 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力や生活歴を活かした家事、家庭菜園での野菜作り、ボランティアの協力による音楽療法や日本舞踊等の役割や楽しみごとの支援をしている。年賀状、暑中見舞いのハガキをご自身で書き、家族へ送るなどの支援をしている。		
25	61	<input type="checkbox"/> 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	水天宮への散歩や買い物を日課としている。季節ごとの花見や紅葉狩り、遠出(神戸花鳥園・須磨水族館・森林植物園・ルミナリエ)、コンサート…等々、毎月、外出を企画し楽しんでもらっている。法事などの日は、ご自宅まで職員が付き添いを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<input type="checkbox"/> 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、常に利用者を見守り、安全に配慮している。玄関、勝手口の鍵は、開放している。門扉の鍵は防犯上(外部者の侵入防止など)、施錠している。夜間は、こまめに巡回し利用者の様子を把握するようにしている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による消火訓練(年1回)のほか、自主訓練を年に2、3回行なっている。群馬県での施設火災を教訓に、コンロを「IHコンロ」に取り替え、カーテンをすべて防災カーテンにした。コンセントのほこりをこまめに清掃するなど、火災の原因となるものについては留意している。災害時に地域の方の協力を得られるよう運営推進会議で相談している。	○	災害時の備えとして、地域の方と職員向けにAEDや心肺蘇生法などの救命講習を受講できるよう、運営推進会議で相談してみてもどうか。夜間を想定した消火訓練も実施してもらいたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を日々記録・管理している。糖尿病やアレルギーがある方には、ごはん量を調節したり、食事内容に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にて使用される家具などは、馴染みのある物を持ち込んでもらい、使い慣れた物に触れることで居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、近隣の方から頂いた花を活け、利用者一人ひとりが、部屋でゆったり過ごせるよう工夫を心がけている。ホームは閑静な住宅地にあり、騒音もなく、気候の良い時にはテラスで日光浴や食事をして頂いている。		

※  は、重点項目。